



投資環境

2026年6月30日

日経平均、激しい値動きが続く

最近の日経平均株価は、値動きが激しい展開が続いています。6月中旬に、はじめて7万円を突破しましたが、その後は1,000円以上の上昇・下落を繰り返すなど、不安定な動きが続いています。ここでは、最近の日本株式市場の動向を整理し、今後の展望をまとめたいと思います。

□ 日経平均は半導体株主導で上昇

年初から日経平均は約4割上昇しています(図表1)。その牽引役となっているのが、半導体株です。国内の半導体株指数は、年初来で約2.5倍上昇しています(図表2)。AIの普及や性能向上により、半導体需要が爆発的に拡大しており、関連企業の収益を押し上げていることが背景です。日経平均は、大手半導体製造装置メーカーのアドバンテストや東京エレクトロンなどが指数に占める割合が高く、半導体株の急上昇が株価の押し上げ要因となっています。

日経平均と並ぶ国内の主要な株価指数であるTOPIXも年初来で15%程度上昇しており、堅調に推移しています(図表3)。米国とイランが戦闘終結で合意したことや国内の企業決算が堅調な内容になったことなどが支えになっているとみられます。ただし、半導体株が指数に与える影響度が日経平均よりも低いことから、上昇率は日経平均と比べて限定的となっています。

日経平均の伸び率が相対的に大きくなっていることから、NT倍率(日経平均株価÷TOPIX)は、最近急激に上昇し、過去最高水準となっています(図表4)。

最近の株式市場は、TOPIXが落ち着いた動きとなる一方で、日経平均の変動が激しくなっています。半導体企業の収益改善期待が日経平均を押し上げる要因となる一方、株価の割高感から利益確定売りも強まっており、これが日々の激しい値動きにつながっているとみられます。

図表1. 日経平均株価



図表2. 日経半導体株指数



図表3. TOPIX



図表4. NT倍率(日経平均÷TOPIX)





しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号

Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会

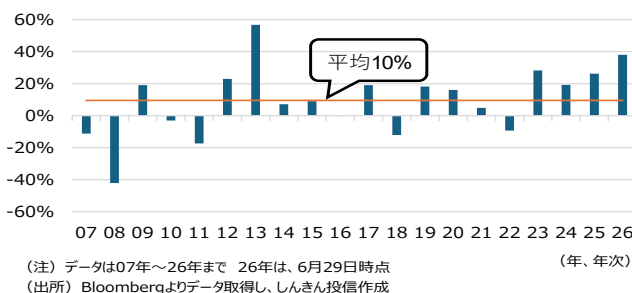
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

□ 今後は、物色動向が変化する可能性

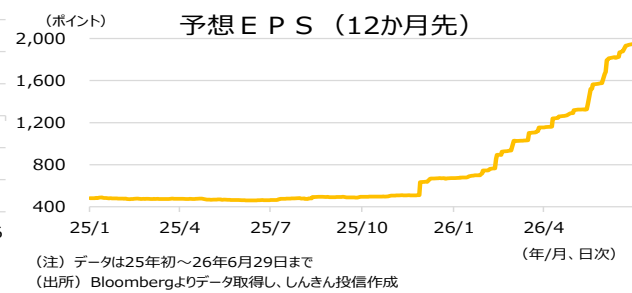
日経平均が年間で40%以上、上昇した年は、過去20年のなかでは、2013年だけです(図表5)。そのため、今後は高値警戒感から利益確定売りに押される場面が増える可能性があります。とくに、足元の日経平均の上昇を牽引している半導体関連企業の業績が想定よりも伸び悩むなど、悪材料が出た場合は、調整幅が大きくなることが想定されます。ただし、2013年は安倍政権が誕生し、アベノミクスへの期待から50%以上日経平均が上昇しました。2026年も、高市政権の経済政策への期待が押し上げ要因となり、日経平均が一段と上昇し、年間上昇率が50%を超える展開になるかもしれません。加えて、日経平均の上昇を牽引している半導体株の上昇は急ピッチですが、今後の企業業績を示す予想1株当たり利益(EPS)の伸びが主な要因であり、株価の割高・割安感を示す株価収益率(PE)は、むしろやや低下しています(図表6、7)。そのため、足元の「株価の高さ」に対する警戒感はあるものの、指標面での割高感は強くなく、業績の裏付けを背景に半導体株が一段と上昇して日経平均を押し上げる展開も十分に想定されます。

一方、TOPIXの年初来上昇率は15%程度にとどまっています。直近3年間の年平均上昇率が約20%であったことと比較すると、もう一段の上値余地を残しているとも捉えられます(図表8)。指数への影響度が高いトヨタ自動車やソニーグループなどの株価低迷がTOPIXの重しとなっていますが、7月下旬以降の決算発表で良好な内容になると、これらの企業に見直し買いが入り、年後半のTOPIXの押し上げ材料となる可能性があります(図表9、10)。

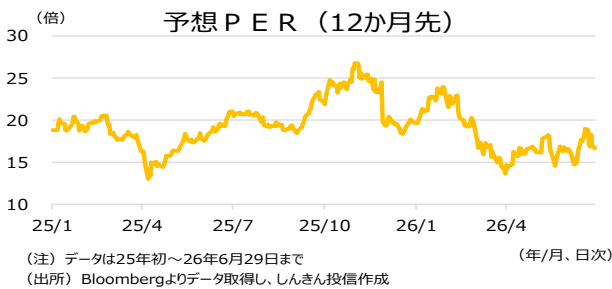
図表5. 日経平均の年間騰落率



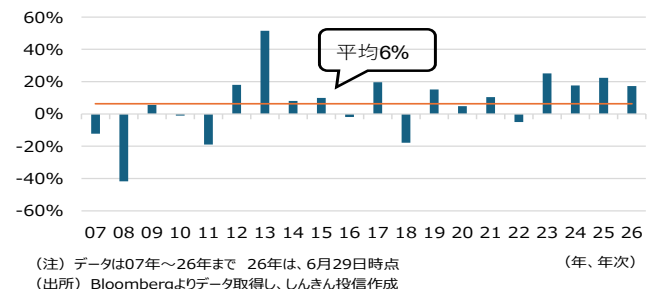
図表6. 日経半導体株指数の
予想EPS(12か月先)



図表7. 日経半導体株指数の
予想PE(12か月先)



図表8. TOPIXの年間騰落率



図表9. トヨタ自動車の株価



図表10. ソニーグループの株価



(ストラテジスト 澤村一樹)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号

Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会

〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www. skam. co. jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。